

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	143男女共同参画社会づくり		
施策のねらい (めざす姿)	男女が互いに人間として平等に尊重されつつ、責任を分かち合い、その個性と能力を十分に発揮し、いきいきと暮らしています。		
基本目標	1「健康で生きがいのある福祉・学習都市」をめざして	施策担当マネージャー	市民生活部次長
政策	14個人が尊重しあう多様な市民交流をつくります	マネージャー氏名	青木 真也

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	女性の能力を発揮できるための環境づくりを施策の基本的方向とし、特に若い世代に男女共同参画意識の醸成・啓発を図る。	③改革・改善内容	少子高齢化や人口減少、女性の就労、男性の家庭や地域への参画をはじめとした従来の課題に加え、男女共同参画の視点に配慮した防災対策や性の多様性など新たな課題が生じており、男女共同参画計画策定委員会を立ち上げ、これらの課題に対応した新しい計画(令和3年度から)を策定していく必要がある。
②①に基づく取り組み結果	子育て世代に関心のある子ども教育に関するセミナーを開催したり、夫婦を対象とした講座を設けるなど若い世代に男女共同参画意識の醸成・啓発を図った。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	市民・職員・事業所	意図(対象をどうするのか)	男女共同参画意識の醸成・啓発を図る。
②施策の概要	男女共同参画推進懇話会で男女計画について広く意見をいただき、進行管理をはじめとして計画の推進を図っていくとともに、男女共同参画推進センターを拠点として、意識醸成を図っていくための事業等を企画・立案のうえ実施していく。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	少子高齢化の進展や、将来的な人口減少の問題などを踏まえると、家族や職場、地域等あらゆる分野において、男女共同参画社会づくりに向けたワーク・ライフ・バランスなどの各施策が、重要となってきている。近年、LGBTIに関連した性の多様性に関する関心が高まってきている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29～30年度の施策の成果	男女共同参画推進計画第2次実施計画が28年度より実施され、各担当課の事業を見ると、平成29・30年度ともに、ほぼ全ての事業で予定どおり実施できており、そのことが施策及び基本事業の成果指標に反映されている。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	目標値(2年度)
	i	男女が平等であると考える市民割合(市民意識調査)	%	—	—	16.7	35.0
	ii	審議会等女性委員割合	%	27.2	28.3	26.5	30.0
	iii						
③基本事業成果指標	i	男女が平等であると考える市民割合(市民意識調査)	%	—	—	16.7	35.0
	ii	男女共同参画推進センター主催事業参加者数	人	1,407	1,836	2,358	1,000
	iii	DV予防講座受講者数	人	409	425	998	480
	iv	審議会等女性委員割合	%	27.2	28.3	26.5	30.0
	v	女性職員の管理職比率	%	22.7	24.1	20.7	20.0
	vi	女性教員の管理職比率	%	10.0	13.3	13.3	20.0
	vii	就学前人口に対する保育所入所率	%	23.4	26.6	29.5	18.0
	viii						
	ix						
④施策の事業費	平成29年度決算	平成30年度決算	市民一人あたり事業費(30年度決算)		令和元年度予算		
事業費(千円)	11,458	10,250	(単位:円)		94円	13,475	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	男女共同参画意識の醸成には、計画に掲げている目標達成に向けた種々の事業を引き続き実施していく必要がある。		
②総合評価	3一部未達成	③総合評価の理由	女性職員の管理職、また審議会員の女性を占める割合など増加傾向にあり、順調に、目標を達成している一方、男女が平等であると考える市民割合については、減少傾向にあることなどにより、左記評価とした。

V 今後の方向性

①施策の方向性	↑ 拡充
②上記方向性の説明	男女共同参画社会づくりの進捗の目安として成果指標があり、その向上を目的として、センターを拠点とした意識醸成を図るための事業を実施し、加えて、次期計画(令和3年から)の策定に向け、アンケートを実施する。
③特に重点化する事務事業	男女共同参画推進センターの管理運営に要する経費